

数々の野鳥が集まる重要空路

野鳥全般に目を向けると、海岸沿いでは、オオワシやオジロワシ、サロベツ原野の湿地で羽を休めるタンチョウやオオヒシクイ、マガンといった渡り鳥など数多くの種類を観察できる。海鳥の楽園、天売島に集う鳥たちも必見だ。

Nishi-EZO
×
Birds & Animals Journey

野鳥観察
ルート

豊かな自然に抱かれた北の大地に生きる命

留萌エリアではエゾシカやキタキツネなど道内ではおなじみの顔ぶれに出会えるが、遠別町のマスコットにもなっているエゾモモンガは珍しい存在。家畜まで含めれば、羽幌町焼尻島の名産、サフォーク種の羊といった生き物も。

Nishi-EZO
×
Birds & Animals Journey

いきもの
ルート

1 タンチョウ

10年ほど前からサロベツ原野周辺でタンチョウが確認されている。秋には湿原の奥から牧草畑に出てくるように、その姿を見られる確率が上がる。白い体に眼先から喉、首、そして尾が黒く、頭頂が赤いのが特徴。夏鳥。



2 ウトウ

天売島は世界最大の繁殖地でその数40万つがい、およそ80万羽といわれる。5月末から7月にかけて、ヒナに魚を持ち帰る帰巣シーンが日没後に見られる。夕闇に鳥のシルエットが天空を覆い尽くして圧巻だ。



3 ケイマフリ

天売島周辺 全身が黒で、目の周りの白と赤い足が印象的な海鳥で、650羽が生息する天売島は国内最大の繁殖地



だ。主に北海道沿岸、オホーツク海沿岸に分布し、世界的にも希少。断崖直下の海を駆け回る姿は躍動的で美しい。

4 ウミガラス(オロロン島)

天売島が国内唯一の繁殖地で、オロロン島の愛称は鳴き声からついた。10羽台まで減って絶滅に瀕したが、デコイ(鳥模型)や鳴き声による誘引作戦で30羽台まで回復し、10羽前後のヒナが毎年巣立っている。



5 クマゲラ

朱鞠内湖周辺には、キツツキの中で最大種のクマゲラが生息している。全身真っ黒で頭頂だけが赤く目立つ。ドラミングのリズムもガツガツガツとゆっくりめで音も低く大きい。留鳥。



6 フクロウ

留萌エリア全域 森の哲学者と形容されることもあるフクロウ。白っぽい灰色の体で樹木のうらでじっとしている姿はたまらなくかわいい。意外と人家に近い林でも観られる。太い樹のうらを探してみると、逢えるチャンスが広がる。留鳥。



7 オジロワシ

留萌エリア全域 オオワシ同様冬季に北から渡ってくる大きなワシだ。ただし、道内ではそのまま留まっている個体もたまに観察できる。体は褐色だが、その名の通り尾が白いのが大きな特徴だ。魚を食べるため海岸線や河畔で見られ、シカやアザラシの死骸を食う姿も珍しくない。特に遠別川河口で観察できる。冬鳥。



8 オオワシ

留萌エリア全域 冬季、ロシア方面から渡ってきて道内で越冬する。名前のとおりとても大きなワシで、遠目にもその迫力は伝わる。海岸線や大きな川の河畔でその姿が見られ、特に

11 エゾモモンガ

遠別町富士見ヶ丘公園周辺 民家周辺の林を住処にしているが、なかなか目に出ない。それもそのはず、彼らは夜行性だから。それでも巣穴を見つけて観察していると、日中でもその姿を見ることがある。



12 羊

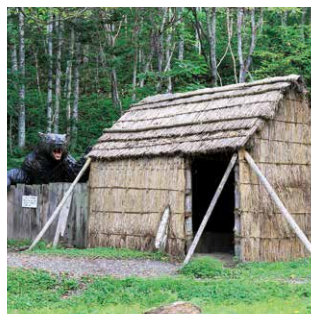
焼尻島にはめん羊牧場があり、真っ黒な顔に白い体のサフォーク種に出会える。どことなくひょうきんな表情で、草原をびよんびよんと小走りする姿が愛らしい。



13 三毛別熊事件復元現地

苦前町三溪 ヘアロードを進んだ先の鬱蒼とした沢谷にあり、巨大なヒグマの像に圧倒される。大正初期、実際に起きたヒグマによる襲撃事件。2日間

7人が犠牲になった。その悲話を追って不屈の開拓者魂を後世に残そうと現地に復元された。(P25)にも記載あり)



開館期間 / 5月中旬～10月下旬

14 エゾヒメギフチョウ

増毛町雄冬岬展望台 早春、雄冬地区の高台にある岬展望台周辺で姿を観ることが出来る。カタクリの花にとまるその姿は、紫と黄色のコントラストが目映く美しい。



15 サケ

留萌エリア全域 北海道の歴史はサケと共に始まったと言っても過言ではない。捨てる部分がなく全て食せ、魚皮も利用出来、大変ありがたい存在だった。ま

遠別川河口で観察できる。全身が黒く、羽軸に沿って白く、また尾と脚も白い。嘴が太くて黄色いのも特徴だ。鋭い眼光はクールそのもの。冬鳥。



9 オオハクチョウ

留萌エリア全域 冬季に止水域や河川下流域で群れている姿が見られる。特に苫前町の古丹別川河口に多い。大柄でとても優雅な鳥だ。アーウアーウオ」と甲高く響くその鳴き声は、一度聞くと忘れることはないだろう。冬鳥。



10 カワセミ

留萌エリア全域 晩春から盛夏、川岸に翡翠に輝く閃光。その正体はカワセミだ。ヤマメやウグイを電光石火の早業で仕留める。一度眼にするとその美しさが忘れられない。夏鳥。



18 エゾタヌキ

留萌エリア全域 ずんぐりとした体躯で顔が黒く、とても愛嬌ある表情のエゾタヌキ。でもそれは寒い季節の姿で、夏にはいきなりスリムに変身する。



19 エゾリス

留萌エリア全域 樹上を軽やかに走り抜けるのは、耳の毛が長いエゾリス。意外とヒトの生活の場の近くでその姿が確認できる、とてもかわいい生き物だ。



20 キタキツネ

留萌エリア全域 ヒグマと並び北海道の動物代表とも言えるキタキツネ。もちろん西蝦夷エリアでも、陽気な彼らには比較的出现しやすい。

